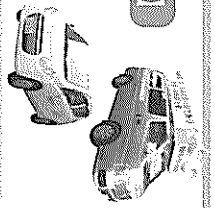


今年度の 12月21日(日曜日) 広報キャンペーンは 4校に行ってきました!



昨年、各育成協の行事におじゃましました。時期が12月中旬だったということで、どこの育成協も、門松づくりで新年の準備をしていました。

同じ門松づくりでも、作り方から大きさ、飾り方などそれぞれに特色、個性がありました。竹を洗い、磨き上げてから、しめ縄まで手作りで作られていたり、土の代わりに水を使うことで、門松を長持ちさせる工夫をされています。手に乗るくらいサイズのミニ門松も、見上げるほど大きな門松も、同様に細部まで作りこんであり、完成品はどれも立派なものでした。どこの行事も大人と子どもが一体となって協力している姿が印象的でした。

また、時節がら歩いている人はまばらでしたが、それぞれの地域の住宅地を中心に、家の中まで声を届ける思いでアナウンス活動を行ってまいりました。これからは、健全育成活動の重要性を伝え、広げていく努力をより一層頑張っていきたいです。



子どもゆめフェスティバル 2014

子どもゆめフェスティバル '14が平成26年11月22日(土)に長崎市民体育館で開催されました。

約1,400名の方々に越しいただき、会場内は子どもたちの笑顔で溢れ、大いに賑わいました。ありがとうございました。次回も皆さんのお越しをお待ちしております!!



編集後記

皆さんが今手にしている「のびゆく長崎っ子」もう目を通しましたか。まだの人はまず見出しから見てみてください。そして、読んでみてください。いろいろなることを知ることが出来ると思います。知ること!これがすべての第一歩です。私たち専門委員も一歩を踏み出してもらえように、毎号話し合いを重ねて作っています。

のびゆく長崎っ子 78

- 今号の内容
- ・第21回広報紙コンクール
 - ・広報啓発キャンペーン
 - ・活動事例発表会
 - ・子どもゆめフェスティバル'14
 - ・どうする?地域活動
 - ・編集後記

第21回長崎市青少年育成連絡協議会 広報紙コンクール



第三十二回 広報紙コンクールで次の育成協の皆さんが表彰されました。おめでとうございます。

- 👑 グランプリ 式見中学校区青少年育成協議会
 - 👑 準グランプリ 大浦中学校区青少年育成協議会
 - 👑 こんびらさん 片瀬中学校区青少年育成協議会
 - 👑 ベスト記事賞 「育成協だより」 小島中学校区青少年育成協議会
 - 👑 ベスト写真賞 「かっぱ」 江津中学校区青少年育成協議会
 - 👑 ベストイラスト賞 「しらたけ峠」 小江原中学校区青少年育成協議会
 - 👑 ベストキャラクター賞 「育成協だより」 深堀中学校区青少年育成協議会
 - 👑 会長賞 「育成協だより」 稲佐小学校区青少年育成協議会
 - 👑 子どもの心い課長賞 「すまいる」 村松小学校区青少年育成協議会
- 今年度は21の育成協からエントリーがありました。前年度「ほっとおさん」がグランプリを受賞した女の都小学校区青少年育成協議会には、今年度の審査員に加っていただきました。

平成26年度 青少年育成協議会活動事例発表会

平成27年2月14日(土)、平成26年度青少年育成協議会活動事例発表会が開催されました。為石小学校区青少年育成協議会、西山台小学校区青少年育成協議会、外海公民館区青少年育成連絡協議会から、活動について熱心な発表が行われました。また、昨年7月、長崎ゆめ体験に参加した中学生による活動報告も行われました。(ゆめ体験については前号に記事掲載。)

3つの育成協の活動発表の概要についてご紹介します。

為石小学校区青少年健全育成会

会長 井上 幸雄

為石(タヌシ)小学校は、長崎市に合併するまでは「西彼杵郡三和町為石」にあり、合併後の現在は、為石町、椿が丘町、藤田尾町の3町を校区としており、自治会も7つあります。長崎半島のちょうど中間に位置し、天草灘をのぞみ、青い海と山々のゆたかな緑に囲まれています。

為石小学校は町のやや高台にあります。歴史は古く、明治6年(1873)の創立で、140年の歴史があります。ピーク時は500人以上の児童がいましたが、現在は138人です。

当育成会は為石小や同小PTA、地区内にある三和中、連合自治会や民生・児童委員、社協、為石支部など14の団体が構成されています。それらの団体の代表者でつくる「運営委員会」で諸行事の計画を立てています。

季節講座で紹介しよう。「麗のぼり揚げ」は4月下旬に学童保育や保育園児たちと一緒に市営住宅の「さんどびあ」の空に2列の鯉たちが泳ぎます。夏休みになると「小学校のグループ管理」を学童保育やPTAと合同で実施しています。そして地区恒例のペーロン大会にも「子ども体験ペーロン」をペーロン協会の協力をいただいて実施しています。また、お盆過ぎ頃に「スイカ割り大会」も毎年行っています。これは、やはり大賑わいです。

12月にはPTAの「餅つき大会」と一緒に行う「門松つくり」もすっかり恒例行事となっています。正月は「鬼火焚き」です。今年は1月10日(土)の午後から準備にかかりました。昨年と今年は三和中ラグビー部員も手伝ってくれました。そして翌11日(日)の午前7時に点火。まだ薄暗いなかで燃え上がる「鬼火」は、まさに壮観です。このような事業も、たくさんの方々の協力があったからこそ継続できる伝統行事です。あらためて地区の皆さんに感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひします。



鬼火焚きの様子

西山台小学校区青少年育成協議会

会長 清水 良治

三川中学校区での連携を深める活動

西山台育成協は、小学校区の育成協ですが、中学校区での活動を4年前から模索して来ました。

平成17年度に始まりました学校選択制で、私達の地区の子ども達が進む三川中学校が、長崎市内でも小規模な中学校になってしまいました。しかし、平成24年から選択制が見直しになるとの変化の中で、校区制に戻るのであれば、小学校の児童から中学校の生徒までを育成できる組織体を立ち上げるために、地域・PTA・学校との連携をとり、統一行事が出来る西山台・三原地区青少年育成連絡協議会を、平成26年7月に発足させました。

ただ、両育成協の事業はそのまま続けて頂いて、統一事業を実施するように実行委員会を随時開催し、12月に三川中学校で、地域・PTA・児童・生徒・学校で第一回門松つくりを開催することが出来ました。

連絡協議会は、児童・生徒の安心安全の通学路、両小学校・中学校の保護者の交流、地域の方々に保護者と子ども達が見える事業を実施できる会の構築を進めていきたいと思っています。最後に、二つの小学校区育成協の統一事業の難しさ、それぞれの築き上げた小学校区での行事の歴史と地域での生活の特色など温度差がありますが、子ども達の育成を考える気持ちは同じであり、目まぐるしく変わる環境の変化も同じだと思います。

これからも、青少年育成での益々の難問を乗り越えて行きながら、ひとつ一つ、前に進んでいきたいと思ひます。



門松つくりの炊き出し

外海公民館区青少年育成連絡協議会

会長 島崎 克比古

今回、琴海地区の育成連について活動報告を発表いたします。尾戸小区の活動は、「海の祭祭り」です。昔遊び、グラブゴルフ、ペーロン体験などで盛り上がりますが、児童数32名の、小規模校であるが故に、大勢の中でも発言できる様な機会を見つけない「ゆめフェスティバル」や「広島・長崎平和交流会」など種力参加させたいと思っています。次に、形上小区は「形上ふれあい広場」で作品の展示・昔あそび、地域の方にお借りした水田で児童が育てたもち米で餅つき体験と、「形上まつり」「ミニ門松作り」で参加者も年々多く賑わっています。

次に長浦小区は「収穫の秋〜感謝を伝えた秋祭り〜」育成協、育友会・学校・子供連の四者で運営ができ大きな収穫です。

村松小区は「ふれあい子ども広場」「安全安心町づくり推進大会」「餅つき大会」で大勢の方々と触れ合うことで郷土愛・命の大切さ・心豊かな人間性を育む目的で開催されている。村松育成協の組織と活動状況は地区の他校区も目標にしています。

外海地区の交流会に、各校区の応援を頂き、4年前の1月に第1回家庭教育講演会を開催しました。第2回目は、三行詩コンクール・演劇と盛り上がり、第3回目に、琴海地区協育振興会としてより活発な活動を続けます。今年も第4回家庭教育講演会を1月に開催しています。

また、今年度の交流会は、キンポール大会を開催し、開始から想像以上、見た目以上に体力を使う試合に、喚声と笑顔がコートではじけつ放して試合後の感想は(楽しかったー、汗かいたー、またやれたかー)でした。子供たちの健全育成活動に、さらに努めたいと思ひます。



餅つき大会

どう？ 地域活動

今回は、幼稚園・保育園から大学まで集めた西浦上小学校区の育成協の構原さんに活動について質問してみました。

Q. 地域が広いので行事等される時の苦労や工夫について。

A. 子ども会合同会議を年間3回実施し、年度当初の会議で年間の活動予定を伝達し、スケジュールの確保をお願いしている。会議の場では、意見交換や情報収集、各子ども会の個別の悩みを聞く機会を設け、少数規模の子ども会でも合同チームを編成するようにし、参加しやすい環境作りを考慮している。また、広報活動として、広報紙を年2回5千部ずつ配布して、活動報告や予定の告知を行い、地域や各家庭に認知してもらうように努力している。特に、各自治会長さんには行事毎に案内を確実に連絡している。

Q. 育成協メンバーのペーランツと若手の関わり方について。

A. 育成協事務局を小学校内に置き、PTA現職役員にも活動への意識を高めてもらっている。また、小・中学校のPTA役員経験者を育成協役員に登用し、現職との連携を円滑にしている。

Q. 育成協も役員の手が減少しているが、どのように対処しているか。

A. 同じメンバーで長く活動している感もあるが、40歳代の比較的若い方にモ加わっていたいので、あまり問題意識はない。それよりも地域には、千人以上の小学生がいるにもかかわらず、子ども会に入る人数が減少しているのと、子ども会自体がなくなっている事を問題視している。自治会長さんへも、子ども会にも配慮していただくよう、日頃よりお願いしている。活動内容としては、8月に「合同ラジオ体操」、12月に「ミニ門松作り」などを行い、10月頃に「西浦上小学校区大運動会」、12月に「ミニ門松作り」などを行い、就学前の幼児から、小学生・西浦上中学校の生徒会、小中学校の先生、保護者や祖父母も参加していただき、世代を超えて地域一体となった活動となっている。



「ラジオで遊ぶ会」



「合同ラジオ体操」